| | |
|---|---|
| 研修名 | 人権Ⅲ |
| | 平成２９年7月２６日（水）１３：００～１６：００ |
| 講　演 | 「インクルージョン時代の保育～わかってほしい子どもの気持ち～」 |
| 講　師 | 東洋英和女学院大学　平田　幸宏　氏 |

１　講演要旨

１）　インクルーシブ保育への転換

コミュニケーションとは発信と受信による情報のやりとり。コミュニケーションツールは大きく分けて３つある【聴覚：音声言語】【視覚：ジェスチャー、表情】【触覚：身体接触】一般的には話し言葉だが音声言語の習得が一番難しい。

赤ちゃんや障害のある方にとって音声言語でのコミュニケーションは不自由＋不安につながる。正確に受信ができない→理解が出来ない→見通しがもてない→不安が加速する→パニックになる。

言語でのコミュニケーションが苦手なのならば視覚・触覚でのコミュニケーションをとればよい。特に触覚の体温を感じるということは一番のコミュニケーション。

この３つのコミュニケーション方法を知っているだけで発達の支援につながる。

２感想

講演のはじめに風船やイボイボの手袋、二人組になっての情報の伝達ゲームのような実演を交えての時間があった。実際に言葉だけでの講義よりも風船の割れる音や、イボイボの手袋で掴まれる感覚、目隠しをした中での初対面の人との手の押し合いのやりとり等、自分たちが体験経験してからのほうがより話の内容が分かりやすかったり、この状況が子どもだったらと想像を膨らませながら聞くことが出来た。

今回の研修では障害児・健常児で保育をわけるのではなくその子が出来ないことがあるのならばどうすれば出来るようになるのか、環境を変える事で可能になるのならばそれは障害ではない。元より環境での制限を感じないように環境を整えておけばよい。というインクルージブ保育の考え方をとても素晴らしいと感じた。一人ひとりの子どもたちの実力発揮のための支援を行っていくことが障害のあるなしにかかわらず良い保育につながるのだと感じた。また、一人ひとりに合わせた支援を行うためには日ごろから情報を得て、スキルを身に着けていくことが必要だと感じた。

（記録　青谷保育園　殿谷　あづみ）